

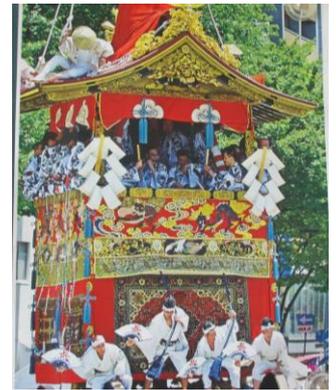
こころのはな



道徳の時間の様子

2年生「ぎおんまつり」 ～地域のぎょうじ～

千年前から続く「ぎおんまつり」のほこに乗るために、一ヶ月前からかねの練習をする『ぼく』。たくさんしかられて「やめてしまいたい」と思ったが、お父さんに「お父さんも、よくしかられて練習したものだ。みんな、そうやって、千年も続くぎおんまつりを守ってきているんだよ」と励まされ、もう一度がんばろうと思った。ぎおんまつりの当日、大勢の観客からあがる歓声や拍手を聞き、ほこに乗ってかねをたたきながら、練習して良かったと『ぼく』は思った。



授業のはじめに、自分たちの住む地域にあるお祭りについて質問をしました。「いろいろなお店が出るよ。」「花火があがるよ。」「地いきを回ってダンスをするよ。」「ししまいや天狗が踊っているよ。」など、お祭りについて色々な話が出てきました。

その後、「ぎおんまつり」のお話を読んで、お祭りに参加する人の思いについて考えました。練習については、『ぼく』のように途中でやめたくなくなるという意見も出ました。一方で、「叱られてもつらくてもがんばろうと思う理由がある。」という意見も出ました。練習を続け、「本番で、ほこの上で鐘をたたきながら『ぼく』はどんなふうにいるのでしょうか」という問いに対して、それぞれに自分の考えを書くことができました。



子どもたちから出た意見

- 練習を続けてよかった。気持ちがいいな。
- もし、やめていたらお祭りがなくなっていたかも。
- みんなに見せることができた。がんばってよかった。
- 千年も続く有名なお祭りに参加できてよかった。
- このお祭りをこれからも、守っていきたい。



授業の終わりでは、自分たちの地域にあるお祭りや行事についての思いを聞いてみました。どの子も「地域にあるお祭りを大切にしていきたい。」「守っていきたい。」「これからも続けてほしい。」という前向きな思いを発表していました。これからも、自分の住む地域の良いところをどんどん見つけ、その思いを大切にしていってほしいです。